

第 165 回獣医学会学術集会:2022 年 9 月麻布大学

「第 18 回獣医学教育改革シンポジウム」
コアカリと共用試験と国家試験
—10 年を振り返り 10 年を予想する—

獣医学教育支援機構に至る50年を振り返り、
10年を予想する

NPO法人獣医系大学間獣医学教育支援機構・理事長
高井伸二



2022年9月6日 午前9時30分～50分

本日の内容

- はじめに
 - 獣医学教育改善運動の黎明期
 - 第一期から第三期の概要
- 獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議
- 獣医学共用試験・調査・準備・委員会
- 獣医系大学間獣医学教育支援機構
- むすびに

獣医学教育改革の歴史

年代	全国協議会 唐木先生(2005)	日本獣医師会	本講演 (2022)
黎明期			1950～1970年
第1期	1971～1990年	1970～1990年	1971～1990年
沈黙の6年間	1991～1996年		
第2期	1997～2004年	1997～2001年	1997～2007年
第3期		2001～2007年	2008年～
第4期		2007年～	

獣医学教育改革の黎明期(1950～1970)

- 1) 昭和25年から「獣医学教育の年限延長」の要請を再三に渡り文科省に行った
- 2) 昭和27年に北大獣医学科が農学部から独立し、獣医学部が設置許可された

田中良夫(1984) 談話室 新獣医学教育制度に寄せる期待と疑問(I-III) 日本獣医師会誌 37:681-691, 754-759, 814-821
 唐木英明(2005) 解説・報告 獣医学教育改革運動の反省と今後 日本獣医師会誌 58:148-151,
 五十嵐幸男(2006) 私の歩んだ日本獣医師会の24年と今後の期待 日本獣医師会誌 59:1月号-7月号
 大森伸男(2007) 解説 獣医師の需給政策としての入学定員の存在 日本獣医師会誌 60:71-78.
 大竹修 獣医学の狩人たち 大阪公立大学共同出版会 2020
 獣医学教育改善ホームページ 1999-2003 2003-2009

黎明期：戦後GHQによる教育改革

- 戦後、GHQによる教育改革により、昭和22年に教育基本法と学校教育法が公布され、同年4月から6・3・3・4年の新しい教育制度が開始された。
- GHQからは医学・歯学とともに獣医学の修業年限も6年制を勧告されたが、残念ながら、獣医学はその機運には至らないとの理由で6年制移行への機会を逸してしまった。

それでは、
「獣医学教育改革」の活動は、いつ頃から始まった

改善運動の黎明期

昭和25年～昭和45年(1950～1970)

- **昭和25年** 日本獣医師会獣医事審議会(会長越智勇一)から中央教育刷新審議会に対し「**獣医学教育の年限延長**」を要請
- 昭和26年 中教審からの要請に対する回答(日本獣医師会宛)「4力年では不十分と認められるが、現下の情勢ではやむを得ないので当分4力年とする」
- **昭和37年** 日本獣医師会獣医事審議会(会長越智勇一)から中教審に「**教育年限の延長**」を要請
- **昭和45年** 日本獣医師会獣医事審議会(会長越智勇一)は中教審に「**獣医学教育年限の延長**」を要望

文部省・中央教育刷新審議会に昭和25年、昭和37年、昭和45年と計3回の要請を、獣医事審議会・会長越智勇一先生が行った。

余談 北大獣医学部の設置

昭和24年から交渉が始まり、27年設置許可

- 昭和24年夏 山極三郎教授・平戸勝七教授が島農学部長に相談
- 昭和24年9月 北大農学部教授会は獣医学部分離独立案を決議
- 東大・越智教授 「獣医学科の充実、拡充は心から賛成なので出来る限り協力するが、考え方が根本的に異なり、学部創設には協力できないばかりでなく反対であり、その考え方を止めるように」と忠告。
- 平戸は再三上京して、確固たる信念で粘り強く折衝を続け、最終的に越智は、北海道は内地と事情がかなり異なっており、我が国での農業が最も畜産的などころがあるので、獣医学会、獣医師会を代表して側面協力の形で平戸の主張を入れるように文部省へ話しをしたのでした。
- **昭和27年(1952) 北大獣医学部設置**
- 平戸勝七教授 将来は獣医学教育も医学部並みに6年制にしなければならないが、学部設置はその第一歩であった。
- 引用:日本の近代獣医学史 大竹 修 動物臨床医学 25(4)153-156, 2016
- 北大に獣医学部を創った微生物学者 平戸 勝七 -


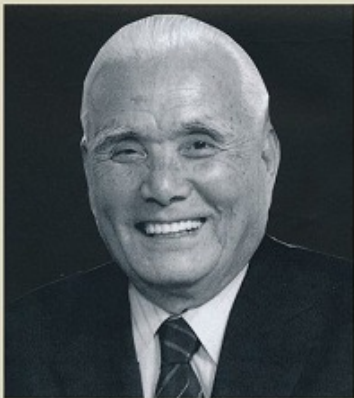
黎明期の偉業

企画展示 8

「夢がなければ人は導けない。これは信頼に通ずる」
越智語録より

「感染症の3要素」説を改め、戦後の日本獣医界を立て直し、麻布大学を作り変えた人

越智勇一という人



2018年9月4日(火)から12月28日(金)まで
麻布大学
麻布大学いのちの博物館

休館日、アクセス方法などの詳細は麻布大学いのちの博物館ホームページをごらんください。



Fig. 1 平戸勝七博士
(昭和 32 年)

唐木先生の改善運動の区分

- 第1期 1971～1990年
 - 沈滞の6年間 1991～1996年
 - 第2期 1997～2004年
 - 第3期
-
- 唐木英明(全獣協会長) 日獣会誌 58:148～151 (2005)
 - 「獣医学教育改革運動の反省と今後」

日本獣医師会の改善運動の区分

- 第Ⅰ期(昭和45年～平成2年) 1970-1990
 - 教育年限の延長から大学院連合獣医学研究科の設置まで
 - 1991-1996
- 第Ⅱ期(平成9年～13年) 1997-2001
 - 団体、大学、文部科学省等における獣医学教育改善目標の設定
- 第Ⅲ期(平成13年～19年) 2001-2007
 - 獣医学教育改善に向けての外部評価取り組みの検討
- 第Ⅳ期(平成20年以降) 2007-
 - 高度専門職業人養成課程としての獣医学教育改善等の方策の検討

第1期

昭和46年～平成2年(1971～1990)

- 昭和46年 日本学術会議(会長越智勇一「**獣医学修業年限延長について(勸告)**」)
- 昭和47年 農林省畜産局長: 獣医学教育年限延長を文部省大学学術局長に**要望**
- 昭和49年 文部省獣医学視学委員会「獣医学教育年限の延長について」とりまとめ
- 昭和50年 **文部省: 獣医学教育の改善に関する調査研究会議が発足**
- 昭和51年 同会議: **修士課程積上方式による6年制教育実施を文部省大学局長に報告**
- 昭和52年 同会議: 修士課程積上方式による6年制教育の基準の取りまとめ
- 昭和54年 同会議: **学部6年制教育実施に際しての規模と配置を文部省大学局長に報告**
- 昭和58年 同会議: 学部6年制教育が実施できるよう文部省大学局長に報告
- 昭和58年 獣医学教育の修業年限が延長及びこれに伴う設置基準」を大学設置審議会に諮問
- 学部6年制教育と博士課程の4年制の実施等を答申
- 平成元年 文科省 大学院設置基準改正 獣医学博士課程の修業年限を4年に変更
- 平成2年 文科省「緊急避難的処置」として、**連合獣医学研究科**の設置

- 昭和52年 **国会 獣医師法(第12条)が改正**
国家試験受験資格を修士修了者に変更
- 昭和53年 獣医師法第12条の改正施行 (昭和53年入学者から適用)
- 昭和58年 **国会 学校法改正 獣医学履修年限を6年に変更**
- 昭和59年 昭和59年度入学者から獣医学6年制教育となる(学士)

越智先生(1902-1992)なくしては、獣医学教育6年制はなかった！
勸告: 日本学術会議会長より内閣総理大臣に対して、手交

第1期の成果 6年制改革達成！

昭和46年～平成2年(1971～1990)

- 国公立大学獣医学協議会
昭和55年「越智試案」
4200時間の教育・14講座(当時は9講座)に増設・学部設置・再編
昭和60年「望月3原則」採択
①国立大学の再編整備②現有教員数を基本③学部並以上大学院
- 大学基準協会
昭和61年「獣医学教育に関する基準」改訂
18講座以上教員数72名以上の最低基準設定
平成2年 獣医学教育研究委員会
教育到達目標、到達手段、カリキュラム等の審議
- 平成3～平成8年(1991～1996)沈滞の6年間

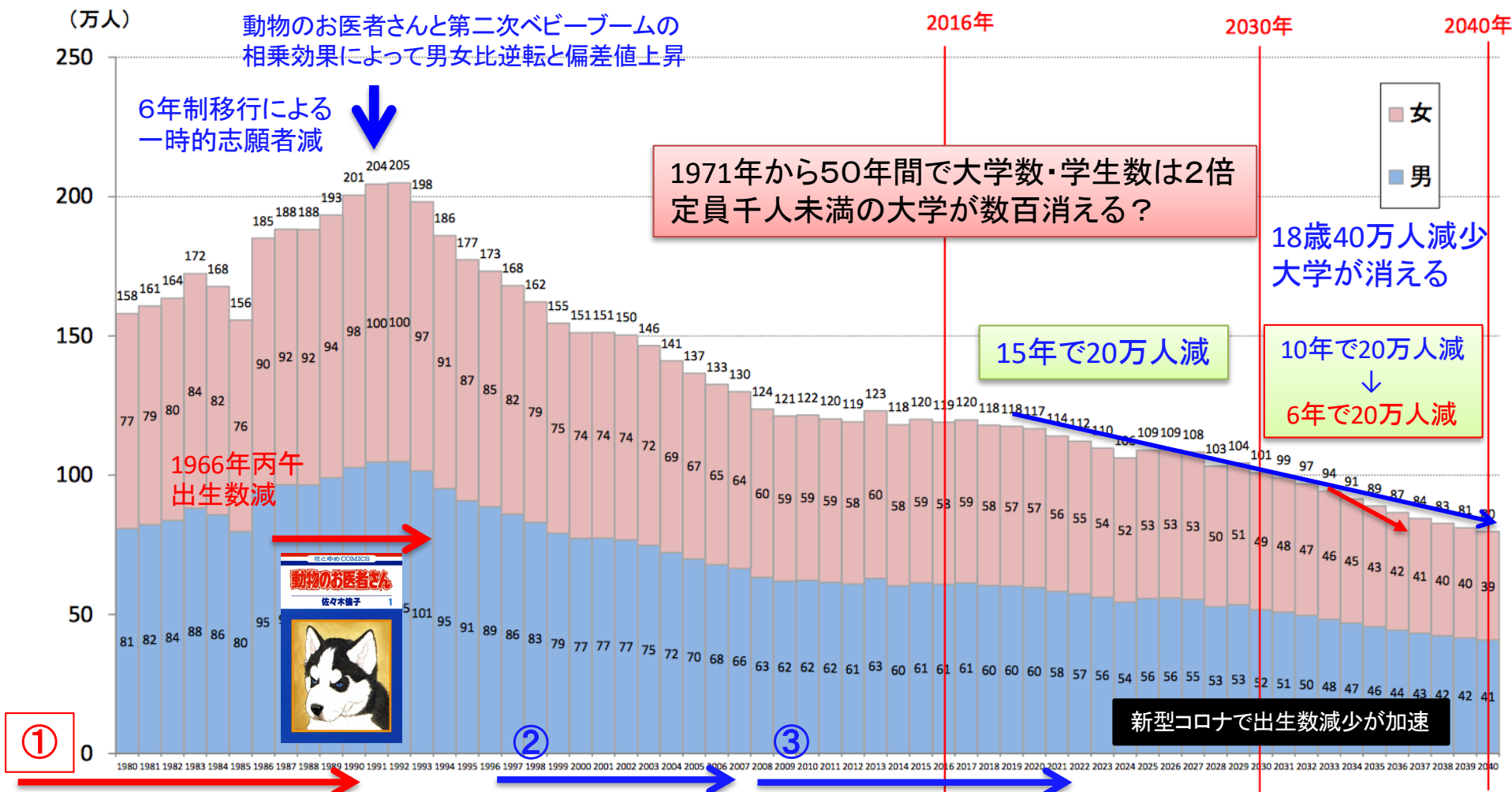
改革の成果

6年制教育内容・教育環境整備：獣医学科18講座

昭和59年獣医師国家試験から記述式からマークシートの導入

18歳人口(男女別)の将来推計

○ 2016年の18歳人口は、120万人程度であるが、2030年には約100万人程度まで減少し、さらに2040年には約80万人まで減少するという推計となっている。



① ※ 過年度高卒者（高等学校または中等教育学校卒業後1年以上経過した後に入学した者）等を含む。
 ※ 「高専4年等」は、国立工業教員養成所入学者（昭和36～41年）、国立養護教諭養成所入学者（昭和40～52年）及び高等専門学校第4学年在学者を指す。

18歳人口は減少、大学数は増加
定員割れ大学は46.4%

(出典) 平成39年以前は文部科学省「学校基本統計」、平成40年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(出生中位・死亡中位)」を基に作成

2021年度大学数788校(5年前759校) 国立82、公立93、私立592、専門職大学14

沈黙の6年間(1991-96)

1978	1	昭和53年	修士積上げ6年制	
1979	2	昭和54年		
1980	3	昭和55年		
1981	4	昭和56年	正規卒業者なし	
1982	5	昭和57年	正規卒業者なし	
1983	6	昭和58年		
1984	1		昭和59年	6年制一貫教育
1985	2		昭和60年	
1986	3		昭和61年	
1987	4		昭和62年	
1988	5		昭和63年	
1989	6		平成1年	4年制博士課程
1990	1			平成2年
1991	2			平成3年
1992	3			平成4年
1993	4			平成5年
1994	5			平成6年
1995	6			平成7年

第2期 基準・外部評価・独法化

平成9年～平成19年(1997～2007)

- 大学基準協会
 - 平成9年「獣医学教育に関する基準」改定
 - 平成13年「獣医学に関する大学院基準」改定
- 全獣協
 - 平成10年「獣医学教育の充実について」要望書を文部省高等教育局長に提出
 - 平成13年「獣医学教育の横断的評価のための調査報告」取りまとめ
 - 平成13年「獣医学教育基準の達成に関する要望書」を各獣医学系大学の学長等に送付
- 全獣農学系学部長会議
 - 平成13年「獣医学教育の改善のための基本方針」を取りまとめ(喜田宏委員長)
- 国立大学獣医学教育協議会(文科省)
 - 平成16年「国立大学における獣医学教育の充実方策」取りまとめ
- 私獣協
 - 平成14年「私立獣医料大学における獣医学教育の相互評価報告書」(平成6-12年)取りまとめ
 - 平成16年「私立獣医科大学大学院における獣医学教育・研究の相互評価報告書」取りまとめ
 - 平成17年「私立大学における獣医学教育充実に関する短期改善目標の達成度調査報告書」
- 科研費(基盤A)
 - 平成11-12年度「獣医学教育の抜本的改善の方向と方法に関する研究」実施
 - 平成13-14年度「獣医学教育の抜本的改善の方法およびその具体化に関する研究」実施
- 日本獣医師会
 - 平成17年「獣医学教育改善に向けての取り組みについて」要望書→文科省等
 - 平成18年「獣医学教育改善に向けての外部評価のあり方中間取りまとめ(案)」公表

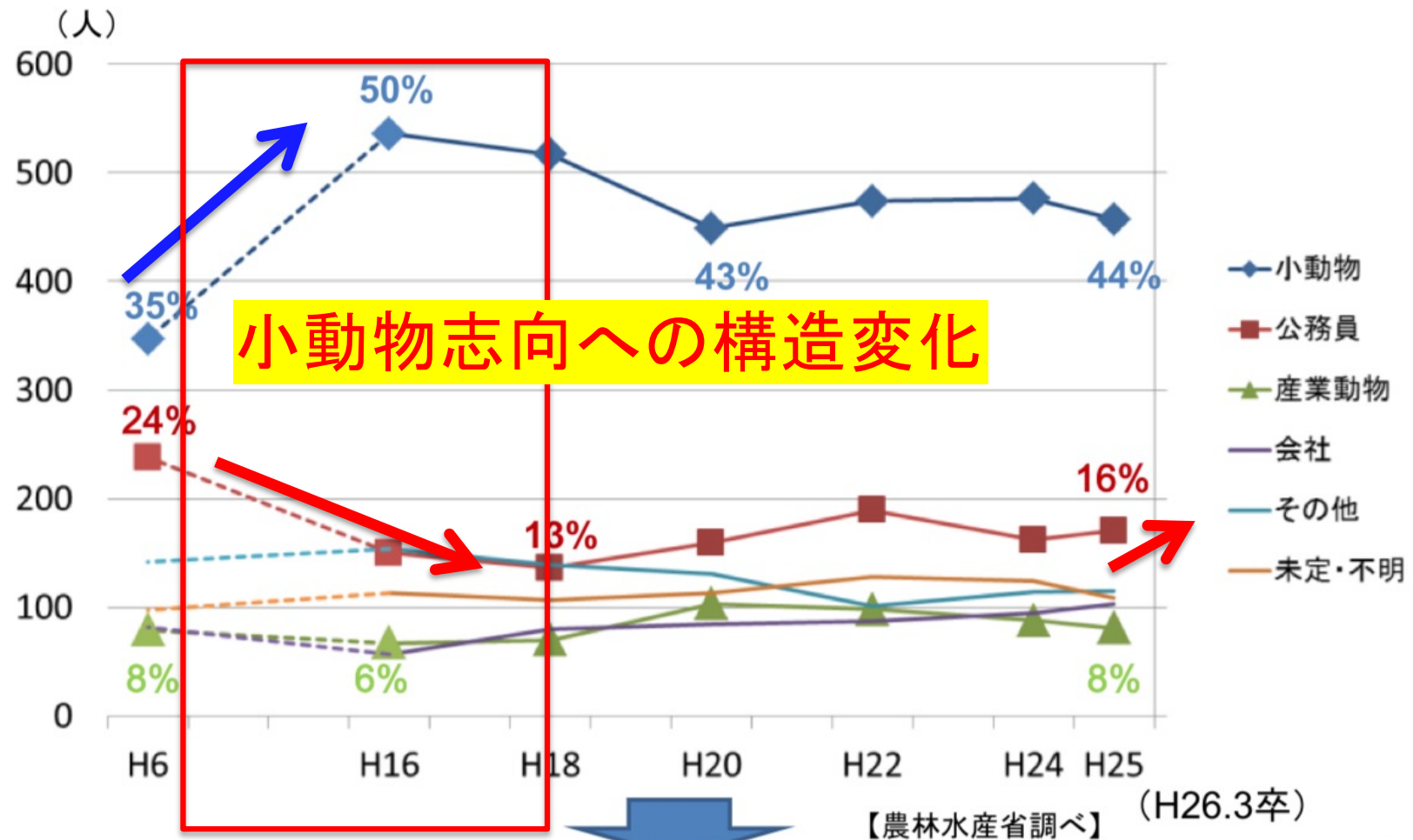
第2期・国立大再編整備の波と壁

平成9年～平成19年(1997～2007)

- 平成9年 全国協議会を中心に再編整備運動が再燃
- 平成10年 西4大学及び東4大学の獣医学関係者が九州大学と東北大学への再編整備を合意
- 平成12年 九州大再編検討第1回私的研究会が九州大側8名と西4大学各代表計12名で始まる
- 平成13年 東4大学獣医学関係者は再編先を北大と東大に変更することを確認
- 平成13年 九州大学獣医学府設置委員会への委員選出依頼に対して宮崎大, 山口大とも拒否.
- 東6大学は, 帯畜大, 北大, 岐阜大グループ,
- 岩手大, 東京農工大, 東大グループ 教育組織, カリキュラムについて検討開始.
- 九州大に獣医学府設置委員会 山口大が委員をだせば宮崎大も出すとの教授会決議
- 平成14年 山口大と鳥取大の2校再編凍結.
- 九州大への宮崎大・山口大の2校先行案に山口大学長反対
- 平成14年 宮崎大は九州大への再編以外に道がないことを学長と確認
- 平成14年 山口大は新学長が獣医学部創設案提示
- 平成15年 国立大学法人法の成立
- 平成15年 若手教員115名が連名で全国協議会長に教育改革の抜本的改革の実現を要望
- 平成15年 第1回国立大学における獣医学教育に関する協議開催, その後各大学は様子見に入り改善運動は停滞
- 平成16年 国立大学は独立行政法人に移行
- 平成16年 第8回文科省協議会 関係大学は当面の措置として教員36名を目標に改善
- 獣医学教員の改善の熱意は急速に冷めていった.

国立大学の再編運動: 大山鳴動して.....

獣医学生の就業状況推移

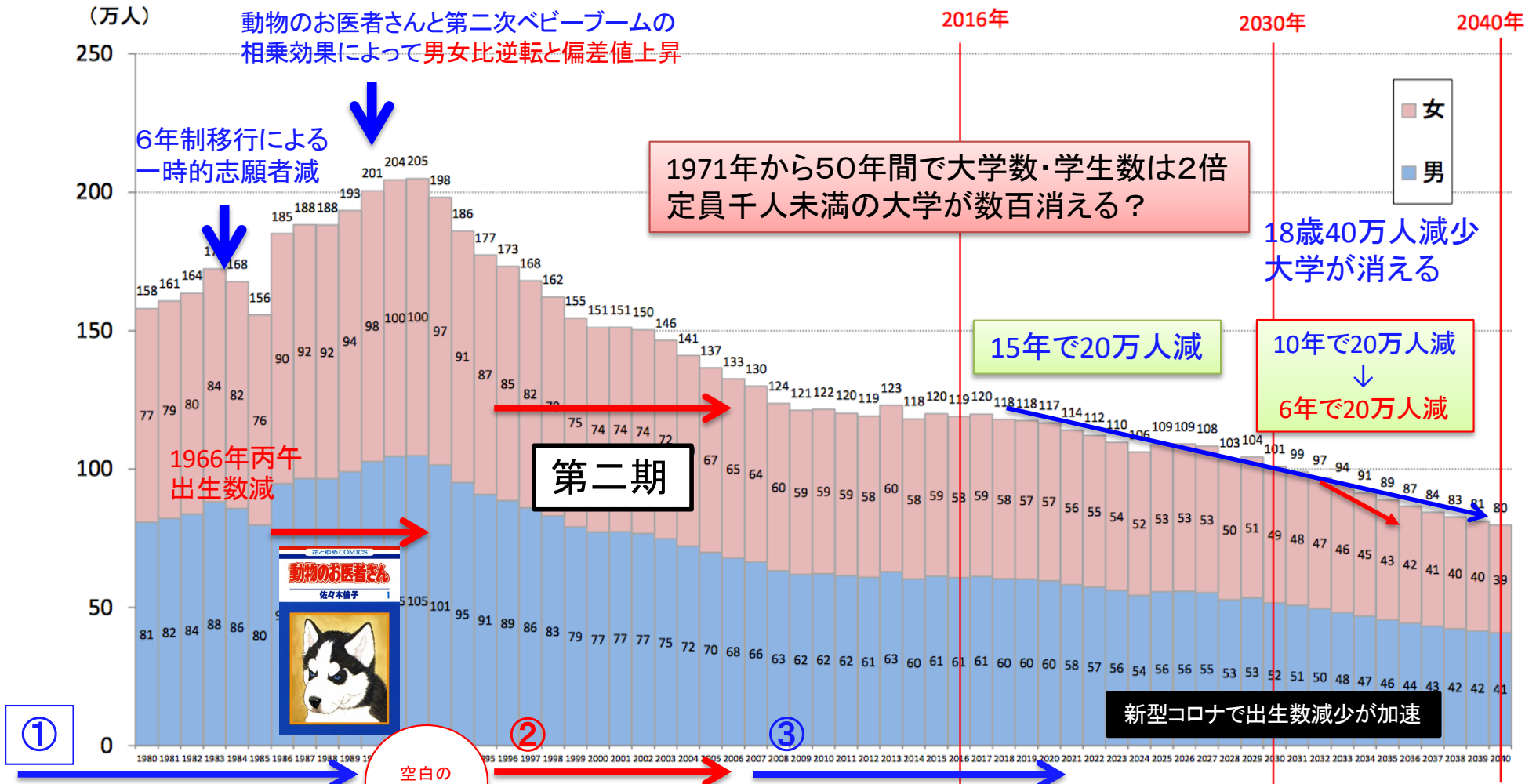


小動物診療分野で減少、公務員分野で増加傾向
産業動物診療分野では定年退職者の増加により採用数を増加

第2期の「動物のお医者さん世代」は小動物に向かった・・・地殻変動

18歳人口(男女別)の将来推計

○ 2016年の18歳人口は、120万人程度であるが、2030年には約100万人程度まで減少し、さらに2040年には約80万人まで減少するという推計となっている。



※ 過年度高卒者（高等学校または短大卒業後1年以上経過した後に入学者）等を含む。

※ 「高専4年等」は、国立工業教育院附属大学（昭和36～41年）、

国立養護教諭養成所入学者（昭和40～52年）及び高等専門学校第4学年在学者を指す。

（出典）平成39年以前は文部科学省「学校基本統計」、

平成40年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（出生中位・死亡中位）」を基に作成

18歳人口は減少、大学数は増加
定員割れ大学は46.4%

2021年度大学数788校(5年前759校) 国立82、公立93、私立592、専門職大学14

医歯薬：教育の改善・充実

- 医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議（2005-2007）
- 2001年医学歯学モデルコアカリキュラム
- 2006年第一回共用試験開始

- 薬学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議（2002-2003）
- 2005年 薬学部6年制開始
- 2009年第一回共用試験開始

医学共用試験導入の経緯

医学教育改革は昭和62年から始まり、平成17年から共用試験開始

- **医学教育の改善に関する調査研究協力者会議（文部省、昭和62年）：**
 - ・教育目標の明確化、カリキュラム改善、臨床実習充実と評価、卒前と卒後研修の関連等多くの提言
- **臨床実習検討委員会最終報告（厚生省、平成3年）：**
 - ・医師法との関係、医学生に許容される医行為のレベルと事前評価
- **「21世紀医学・医療懇談会報告」第1次～第4次報告（文部省、平成8年～平成11年）：**
 - ・適性に留意した人材選考、臨床実習の充実、教育内容の精選と多様化、適切な進級認定システムの構築
- **「21世紀における医学・歯学教育の改善方策について—学部教育の再構築のために—（文部科学省、平成13年3月）：**
 - ・学部教育内容の精選＝「モデル・コア・カリキュラム：教育内容ガイドライン作成
 - ・臨床実習開始前の適切な評価システム構築＝共用試験システムの開発

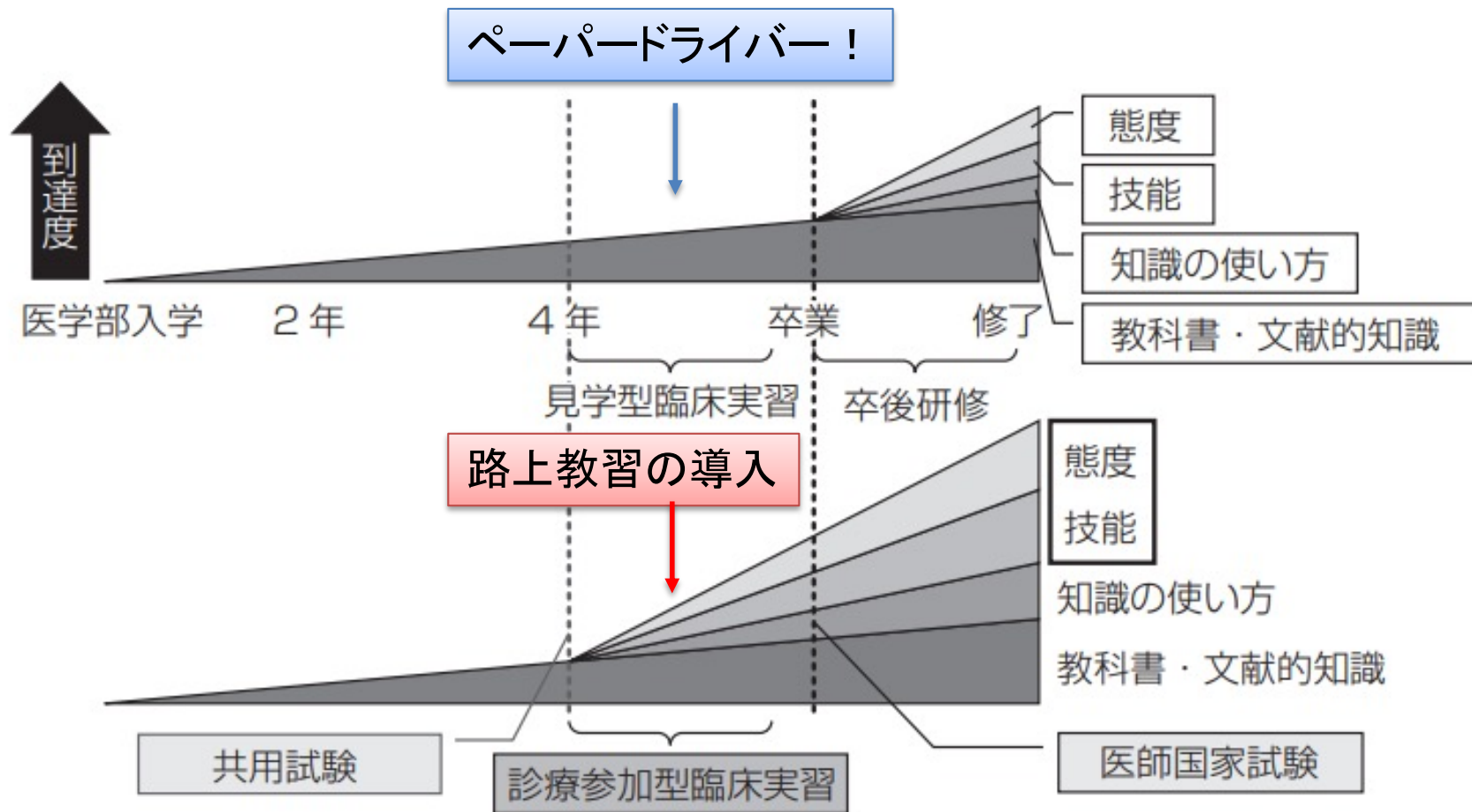


図 2. 見学型と診療参加型臨床実習の学習目標の比較と共用試験，医師国家試験との関係

3. わが国の大学における医学教育制度の歴史的背景

わが国では，教育能力を開発したり，教育業績を正当に評価したりすることについて，大学や講座を越えて何らかの系統だった手だてが講じられた形跡がほとんど見あたらず，大学医学部の教員が教育業務を「研究や診療業務の片手間」あるいは「雑用」と認識してしまう土壌を生んでしまったことである。 吉田 素文 日内会誌96：2667～2672 2007

第3期・文科省が協力者会議を設置！

平成20年～（2008～）

- 文部科学省
- 平成20年「獣医学教育の改善・充実に係る調査研究協力者会議」設置
- 平成20年12月17日から平成23年3月7日まで11回開催
- 平成23年「今後の獣医学教育の改善・充実方策に関する報告書」公表
- 平成24年 第2期「獣医学教育……調査研究協力者会議」の設置
- 平成24年3月13日～平成26年4月24日まで18回開催

- 平成21年7月-23年3月
- 「獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに関する調査研究(東京大学)」
- 平成23年3月「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム 平成23年度版」公表
- 平成24年3月 獣医学モデル・コア・カリキュラム(H24版)
- 令和元年 3月 獣医学モデル・コア・カリキュラム(R1版)

- 全国大学獣医学関係代表者協議会
- 平成21年12月-23年3月 獣医学共用試験調査委員会の発足
- 平成22年3月 全国協議会に答申案を提出

医歯薬の改善・充実の活動に沿った流れが始まる

「今後の獣医学教育の改善・充実方策について」意見のとりまとめ（概要）

— 平成23年3月 獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 —

1 獣医学教育を取り巻く状況の変化

→現場の最前線で活躍できる高度な実践力を備えた獣医師の養成が、獣医学教育の喫緊の課題・責務

- ① 社会ニーズに対応した人材の高度化
(口蹄疫や鳥インフルエンザ・BSE等の発生、獣医療の多様化・高度化)
- ② 獣医師養成の国際的通用性の確保
(国際獣疫事務局において獣医師が備えるべきコンピテンシーリストが検討)
- ③ 我が国の獣医師の現状を踏まえた対応
(産業動物分野等の魅力向上、高度な実践力を有する獣医師養成が必要)
- ④ 我が国の大学教育改革を踏まえた対応
(高等教育の質保証が重要な課題、医学等における質保証の取り組み例)

2 獣医学教育の各分野の現状と課題

→平成21年3月「教育内容に関する小委員会」を設置し、16大学の教育内容・教育研究体制を分析

- ① 最低限共通的に教育すべき内容を十分に教育できていない大学がある
- ② 新たな分野（獣医疫学、動物行動治療学等）への対応が十分取れていない
- ③ 将来のキャリアと学びを関連づける教育に課題がある
- ④ 獣医師として求められる実践的な力を育む教育（実習科目や応用系・臨床系の講義科目等）に課題がある
- ⑤ 大学ごとの分析として獣医師養成課程の規模の小さい大学に課題が多い

○平成16年7月の「国立大学における獣医学教育の充実・改善方策について」を踏まえた各大学の取り組みの成果の検証と、更なる検討の必要性

3 獣医学教育改善・充実の基本的方向性とその具体的方策について

以上の課題を解決しつつ、国際水準の教育を実現するためには、全国の獣医学関係者の総意のもと教育改革の取り組みをスピーディーに推進することが必要

- ① モデルコアカリキュラムの策定等による教育内容・方法の改善促進
- ② 自己点検・評価の実施や分野別第三者評価の導入など、獣医学教育の質を保証するため評価システムの構築
- ③ 共同学部・共同学科の設置など大学間連携の促進による教員の確保を含めた教育研究体制の充実
- ④ 実習室等の教育環境及び附属家畜病院の充実や、外部専門機関等との連携による臨床教育等の充実
- ⑤ 共用試験の導入に向けた検討（診療行為に参加する学生の事前評価について社会的信頼を得る仕組みを構築）など

第3期 獣医学教育改革ロードマップの提示！

国際水準の獣医学教育の実施に向けた改革工程（イメージ）

※工程に示した期間は医学・薬学の事例を参考にして、あくまで目安として示したものである。

H23 獣医学教育の改善・充実のための調査研究協力者会議による提言

教育研究体制 整備

H23～

- ・ 共同教育課程の検討
- ・ 外部機関との連携等教育研究体制の充実

H24～

- ・ 共同学部の実施(準備中)
鹿児島大学・山口大学
- ・ 共同教育課程, 共同学科の実施(準備中)
帯広畜産大学・北海道大学, 岩手大学・東京農工大学

教育研究体制の充実

共同学部の推進等, 更なる体制の充実

モデル・コア・カリキュラム 策定・実施

H23

- ・ コアカリの策定

H24～

- ・ 各大学におけるカリキュラムの改革

教育内容・方法の改善

H28頃

- ・ コアカリの改訂

分野別第三者評価 導入・実施

H23～

- ・ 評価の在り方の検討
- ・ 評価基準案の検討

H24～

- ・ 評価基準案の提示
- ・ 自己評価の試行

5年後～

- ・ 評価基準の提示
- ・ 実施体制等の決定
- ・ 評価基準の最終確定
- ・ トライアル第三者評価

H32頃

- ・ 本格実施

共用試験 導入・実施

H23～

- ・ 試験内容, 実施体制
- ・ 実施方法等の検討

H24～

- ・ 試験内容案や評価基準案の提示
- ・ 試験内容等の決定
- ・ 試験試行開始

臨床教育の改善

H28頃

- ・ 試験の正式実施

充実した獣医学教育の実施, 自律的な教育改善を促す質保証システムの構築

※各大学の取り組みの成果を検証し, 結果を公表するなど, その確実な取り組みを推進していく必要

国際水準の獣医学教育の提供

第3期・・・改革工程に沿って

平成20年～(2008～)

全国大学獣医学関係代表者協議会(全獣協)

- 平成21年12月 獣医学共用試験調査委員会の設置

獣医学共用試験調査委員会(平成21-22年:委員長 高井伸二)

- 平成22年3月 同委員会「獣医学共用試験に関する答申書」全国協議会に提出
- 平成22年9月 獣医学共用試験調査委員会終了し獣医学共用試験準備委員会の設置を承認

獣医学共用試験準備委員会(平成22-23年:委員長 高井伸二)

- 平成22年11月 16大学委員による準備委員会設置
- 平成23年3月 全国協議会に6つの部会の設置承認
- 獣医学モデルコアカリキュラム、○共用試験、○共通テキスト、
- 産業動物・感染症・公衆衛生共同実習、○第三者評価、○家畜病院
- 平成23年9月 共用試験実施工程(案)の上申 準備委員会終了し共用試験委員会の設置承認

獣医学共用試験委員会(平成23-26年:委員長 高井伸二)

- 平成24年4月 獣医学共用試験委員会 6小委員会の設置
- vetCBT小委員会、○vetCBT問題内容検討部会、○vetCBT問題フォーマット・マニュアル小委員会、○vetOSCE準備小委員会、○トライアル実施小委員会、○広報委員会
- 平成24-26年 科研費 基盤A:参加型臨床実習生の質の確保のための獣医学共用試験の開発的研究
- 平成25年 共用試験実施準備:CBT/OSCE問題、試験システムの検討
- 平成26年 共用試験実施準備:CBT/OSCE問題、試験システム・トライアルの実施

平成 22 年 3 月 25 日

全国大学獣医学関係代表者協議会
会長 吉川 泰弘 殿

全国大学獣医学関係代表者協議会
会長 吉川 泰弘 殿

獣医学共用試験調査委員会
委員長 高井 伸二

獣医学共用試験調査委員会 報告書（中間答申）

本委員会では、平成 21 年 12 月 4 日に開催された第 1 回委員会において、貴職から諮問のありました「獣医学共用試験の調査について」について、4 回の委員会を開催して鋭意検討を重ねてまいりました。

本委員会の現在までの審議の途中経過をとりまとめましたので、ここに中間答申として提出いたします。

獣医学共用試験調査委員会

委員長 高井 伸二（北里大学教授）
浅井史敏（麻布大学教授）
新井敏郎（日本獣医生命科学大学教授）
大野耕一（東京大学准教授）
鎌田 寛（日本大学教授）
北川 均（岐阜大学教授）
杉山 誠（岐阜大学教授）
山下和人（酪農学園大学教授）

（五十音順）

2010.03.25

答申書では獣医学共用試験の実施は教育改善の手法として必須と結論

答申の骨子：共用試験と参加型臨床実習

- 質の改革
- 獣医学・モデル・コア・カリキュラムの策定
- 見学型から参加型臨床実習への変革
- 獣医師法・第17条のハードルがある
- →共用試験の実施
- 各大学におけるアドバンス教育(大学の特色)

- 量の改革
- 診療参加型臨床実習(小動物・産業動物)の充実
- 公衆衛生・家畜衛生分野の充実

共用試験実施への工程表の提案

年度	教育研究体制の整備	共用試験委員会
23 2011		<ul style="list-style-type: none"> ✓9月総会 方針の確認 ✓10月科研費基盤A申請(事業費) ✓11月準備委員会総会
24 2012		<ul style="list-style-type: none"> ✓共用試験委員会の発足(科研費基盤A) ✓試験問題作成開始 (16大学)
25 2013	✓共用試験第一期生(1年)	<ul style="list-style-type: none"> ✓共用試験実施機構の設立 ✓第1回CBTトライアル
26 2014	✓共用試験第一期生(2年)	<ul style="list-style-type: none"> ✓第2回CBTトライアル ✓OSCEトライアル
27 2015	✓共用試験第一期生(3年)	<ul style="list-style-type: none"> ✓第3回CBTトライアル ✓OSCEトライアル
28 2016	✓共用試験第一期生(4年)	✓共用試験本格実施(4年生後期から)
29 2017	✓共用試験第一期生(5年)	✓参加型臨床実習
30 2018	✓共用試験第一期生(6年)	✓参加型臨床実習

平成23年準備委員会で平成28年度(2016)からの実施を決定

参加型実習の違法性の阻却

- 農水省によるWGの設置と検討と通知

写

22消安第1514号
平成22年6月30日

別記 あて

農林水産省消費・安全局
畜水産安全管理課長

獣医学生の臨床実習における獣医師法第17条の適用について

獣医学を履修する課程に在籍する大学生（以下「獣医学生」という。）が臨床実習において他者が所有する飼育動物に対して行う診療行為が、獣医師法（昭和24年法律第186号。以下「法」という。）第17条の規定に抵触し、法第27条第1号の規定により2年以下の懲役若しくは100万円以下の罰金に処し、又はこれを併科するものとされている罰則（以下「無免許獣医業罪」という。）が適用されるか否かについて、今般、下記のとおり考え方を整理したので、御了知の上、貴大学において臨床実習の充実に關する検討を進める際の参考にされたい。

獣医学教育の改善・充実に 調査研究協力者会議での意見

参加型実習がもたらす 獣医学教育の改善と その新たな役割

農林水産省 消費・安全局
畜水産安全管理課 小動物獣医療担当
佐々木 勝憲

・日本では最終学年は卒業論文作成に時間がとられていて、臨床実習が不十分であることが問題である。欧米では、獣医教育病院で患畜の簡単な手術などの実習ができるが日本ではできない。

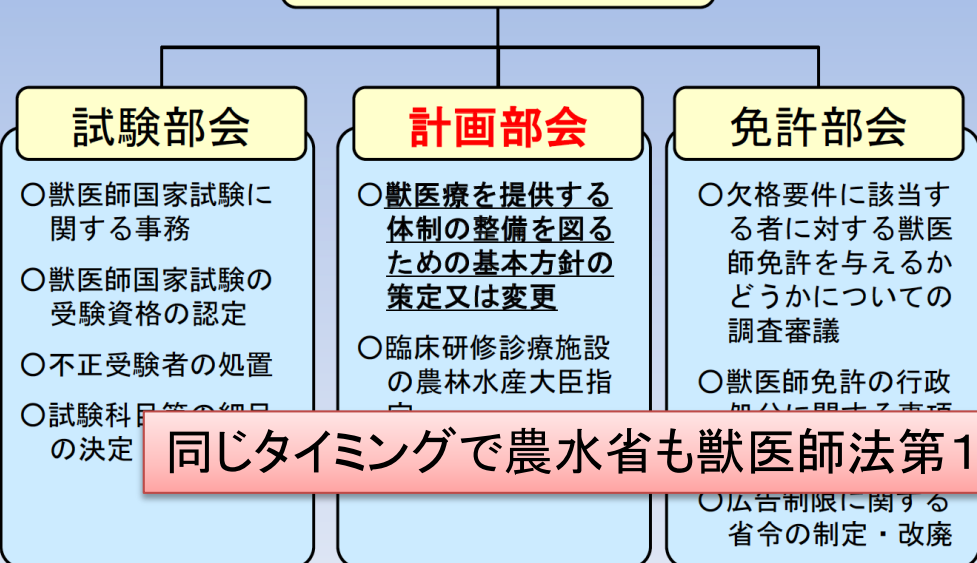
・学生による実験動物や患畜の取扱いを明らかにして各大学に周知して欲しい。

・学生が行える医行為について日本では非常に制限があるとは知っているが、実際にどの程度の行為であれば学生が行えるのかが知りたい。

獣医事審議会 計画部会 分野別WGの指摘

〔平成21年10月
計画部会に報告〕

獣医事審議会 (獣医師法第24条)



産業動物分野WG報告書 (抜粋)

Ⅲ 対応すべき取組
Ⅲ-1 早急に取り組むべき事項
1 産業動物獣医師の育成・確保対策の強化
(1) 獣医系大学の学生に対する臨床実習等の充実
(前略) 大学と連携し獣医系大学の学生に対する臨床実習を質・量ともに充実させていく必要がある。
(後略)
なお、獣医系大学が学生の臨床実習を積極的に取り入れ充実させるに当たっては、獣医療行為にかかわる実習のあり方について臨床実習の体制を含め早急に整理することが必要である。

小動物分野WG報告書 (抜粋)

Ⅲ 対応すべき取組
Ⅲ-1 早急に取り組むべき事項
1 小動物獣医療の質の確保
(1) 大学教育における臨床実習等の充実
が、現状では臨床実習に
実習において実施可能な
獣医療行為の範囲を明確にすることで、臨床実習の内容を充実させる必要がある。これにより、獣医学生を獣医療スタッフの一員として診療に携わらせる機会を与えることが可能となり、学生に獣医師としての責任を自覚させ、コミュニケーション能力や獣医療技術等のより効果的な習得が期待できる。(後略)

同じタイミングで農水省も獣医師法第17条の違法性の棄却要件を検討

WGでの検討結果について

ワーキンググループの検討結果

(2010)平成22年6月29日
計画部会に報告、審議・了承

「獣医学生の臨床実習における獣医師法第17条の 適用について」

(平成22年6月30日付け22消安第1514号農林水産省
消費・安全局畜水産安全管理課長通知)
により、獣医系大学や関係者に通知

臨床実習における獣医学生の飼育動物に対する診療行為が条件を満たしているかの判断については、臨床実習現場の状況や獣医系大学のカリキュラムが大学ごとに異なること等を考慮し、獣医学的知識を有する専門家の意見を踏まえて判断されることが適当。

獣医学教育モデル・コア・カリキュラム

- 獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに関する調査研究（東京大学:尾崎先生） 平成21年7月-23年3月
- 平成23年3月 獣医学モデル・コア・カリキュラム（H23年版）
- 平成24年3月 獣医学モデル・コア・カリキュラム（H24年版）
- 令和元年 3月 獣医学モデル・コア・カリキュラム（R1年版）
- 令和4年4月 令和元年度版の修正版公開

獣医学教育モデル・コア・カリキュラム

Veterinary Education

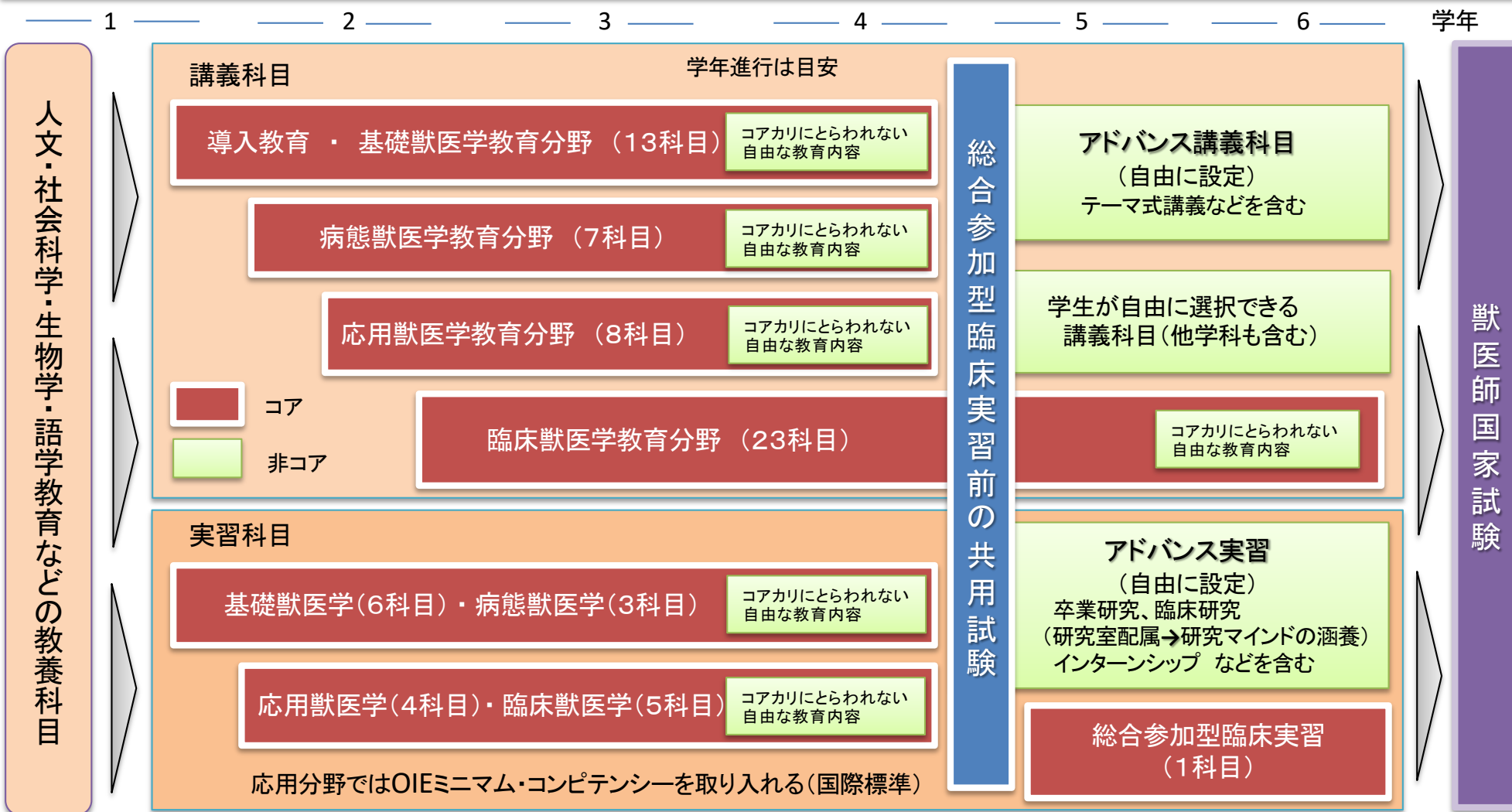
Model Core Curriculum

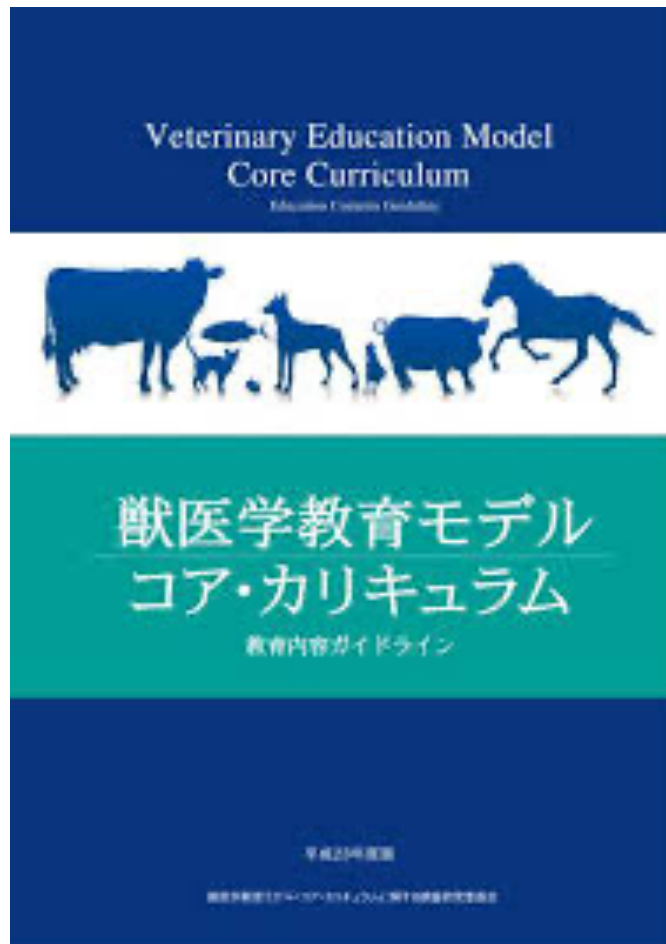
2019年度版

(2021年度一部修正)

獣医学モデル・コア・カリキュラム（平成23年3月策定）（概要）

- 獣医学生が卒業時まで身につけるべき必須の能力（知識・技能・態度）に関する具体的な到達目標を明示。
- 獣医学専門教育課程6年間で教えるべき2／3程度の内容とし、残りは各大学がそれぞれの理念に基づいて独自のカリキュラムを組む。
- 近年の獣医学の進歩や社会的ニーズを考慮して講義科目として51科目、実習科目として19科目を選択。ただし、科目名は例示であり、また単位数（時間数）も大学が独自に割り振る。
- 共用試験の出題基準、また大学の自己点検・自己評価あるいは横断的・分野別評価の基準として使用できる。





共用試験の出題内容と範囲を規定するのもモデルコアカリキュラム

第3期 vetCBTとvetOSCEの開発

平成20年～(2008～)

全国大学獣医学関係代表者協議会(全獣協)

- 平成21年12月 獣医学共用試験調査委員会の設置

獣医学共用試験調査委員会(平成21-22年:委員長 高井伸二)

- 平成22年3月 同委員会「獣医学共用試験に関する答申書」全国協議会に提出
- 平成22年9月 獣医学共用試験調査委員会終了し獣医学共用試験準備委員会の設置を承認

獣医学共用試験準備委員会(平成22-23年:委員長 高井伸二)

- 平成22年11月 16大学委員による準備委員会設置
- 平成23年3月 全国協議会に6つの部会の設置承認
- 獣医学モデルコアカリキュラム、○共用試験、○共通テキスト、
- 産業動物・感染症・公衆衛生共同実習、○第三者評価、○家畜病院
- 平成23年9月 共用試験実施工程(案)の上申 準備委員会終了し共用試験委員会の設置承認

獣医学共用試験委員会(平成23-26年:委員長 高井伸二)

- 平成24年4月 獣医学共用試験委員会 6小委員会の設置
- vetCBT小委員会、○vetCBT問題内容検討部会、○vetCBT問題フォーマット・マニュアル小委員会、○vetOSCE準備小委員会、○トライアル実施小委員会、○広報委員会
- 平成24-26年 科研費 基盤A:参加型臨床実習生の質の確保のための獣医学共用試験の開発的研究
- 平成25年 共用試験実施準備:CBT/OSCE問題、試験システムの検討
- 平成26年 共用試験実施準備:CBT/OSCE問題、試験システム・トライアルの実施

獣医学共用試験に向けたロードマップとCBT/OSCE委員会立ち上げが準備委員会の仕事

Solution 1 (教育の質保証)

教育の内部質保証を担保する3つの手法と分野別評価

コア・カリキュラム

「分野別基準と第三者評価」の導入

獣医学教育評価ハンドブック

共通試験

共通テキスト
(教材)

ラーニングアウトカムを
検証する全国共通の試験＝共用試験



Solution 2 (実践力を備えた獣医師養成)

見学型から参加型臨床実習導入への障壁

動物に侵襲危害を与える可能性のある
獣医療行為は、違法行為である。

- 獣医師法 第4章 業務（飼育動物診療業務の制限）
- 第17条 獣医師でなければ、飼育動物（牛、馬、めん羊、山羊、豚、犬、猫、鶏、うずらその他獣医師が診察を行う必要があるものとして政令で定めるものに限る。）の診療を業務としてはならない。
- 第6章 罰 則
- 第27条 次の各号の一に該当する者は、2年以下の懲役若しくは100万円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。
- 1. 第17条の規定に違反して獣医師でなくて飼育動物の診療を業務とした者

違法

参加型実習における
学生の獣医療行為

違法性阻却事由を
何とするか？

Solution 3 (獣医学共用試験の実施)

vetCBTとvetOSCEの開発と実施

vetCBT (veterinary Computer-based Testing) とは

参加型臨床実習開始前までに修得しておくべき必要不可欠な獣医学的知識を総合的に理解しているかどうかを評価する試験

vetOSCE (veterinary Objective Structured Clinical Examination)

獣医学生がStudent Doctorとして参加型臨床実習に参画する場合も医療面接や動物の身体診察の基本的臨床能力を備えていることが必要です。この評価を行うのがvetOSCEです。



第3期 支援機構の設置

平成20年～(2008～)

全国大学獣医学関係代表者協議会(全獣協)

- 平成21年12月 獣医学共用試験調査委員会の設置

獣医学共用試験調査委員会(平成21-22年:委員長 高井伸二)

- 平成22年3月 同委員会「獣医学共用試験に関する答申書」全国協議会に提出
- 平成22年9月 獣医学共用試験調査委員会終了し獣医学共用試験準備委員会の設置を承認

獣医学共用試験準備委員会(平成22-23年:委員長 高井伸二)

- 平成22年11月 16大学委員による準備委員会設置
- 平成23年3月 全国協議会に6つの部会の設置承認
- ○獣医学モデルコアカリキュラム、○共用試験、○共通テキスト、
- ○産業動物・感染症・公衆衛生共同実習、○第三者評価、○家畜病院
- 平成23年9月 共用試験実施工程(案)の上申 準備委員会終了し共用試験委員会の設置承認

獣医学共用試験委員会(平成23-26年:委員長 高井伸二)

- 平成24年4月 獣医学共用試験委員会 6小委員会の設置
- ○vetCBT小委員会、○vetCBT問題内容検討部会、○vetCBT問題フォーマット・マニュアル小委員会、○vetOSCE準備小委員会、○トライアル実施小委員会、○広報委員会
- 平成24-26年 科研費 基盤A:参加型臨床実習生の質の確保のための獣医学共用試験の開発的研究
- 平成25年 共用試験実施準備:CBT/OSCE問題、試験システムの検討
- 平成26年 共用試験実施準備:CBT/OSCE問題、試験システム・トライアルの実施

共用試験の実施母体として獣医学教育支援機構が立ち上がった

獣医学と先行分野のとの違い

事業規模が圧倒的に小さい！ → 運営費?!

	医学	歯学	薬学	獣医学
共用試験実施主体	(社)医療系大学間共用試験実施評価機構		NPO法人・薬学共用試験センター	獣医学共用試験機構(仮)
参加大学	80大学	29大学	66大学	16大学
参加学生数	7800名	2200名	9400名	1000名
事業規模	5億6千万		3億8千万	?

貧乏でも出来る共用試験

← 同様な共用試験実施



患者中心の医療に向けた
医師・歯科医師の育成を目指して

会員数 医学歯学・111大学
年間予算 7億5千万余円

JACME

国際基準をふまえた医学教育分野別評価を通じ、医学と医療の発展に貢献します。

医学教育分野別評価基準
～日本版～

受審要項
～ご受審にあたって～

認定大学情報
評価認定結果はこちら

広報誌
JACME Newsletter

講習会・ワークショップ情報
部会・委員会活動

WFME | WORLD FEDERATION FOR
MEDICAL EDUCATION

ECFMC | EDUCATIONAL COMMISSION FOR
FOREIGN MEDICAL GRADUATES

World Directory of
Medical Schools

世界医学教育連盟(WFME)
の国際基準をふまえて医学
教育プログラムを公正かつ
適正に評価することを目的



薬学共用試験センター

Pharmaceutical Common Achievement Tests organization

私たちは実習生と薬学知識、薬を扱う能力を
そして
持つ

会員数 薬学・77大学
年間予算 3億円位？

参加型実務実習に向けたCBTとOSCE

薬学共用試験

Pharmaceutical Common Achievement Tests



[MORE INFO](#)

知識および問題解決能力を評価する客観試験

CBT

Computer-Based Testing



[MORE INFO](#)

技能・態度を評価する客観的臨床能力試験

OSCE

Objective Structured Clinical Examination



[MORE INFO](#)



一般社団法人

薬学教育評価機構

[お問い合わせ](#) [サイトマップ](#) [個人情報保護方針](#) [ENGLISH](#)

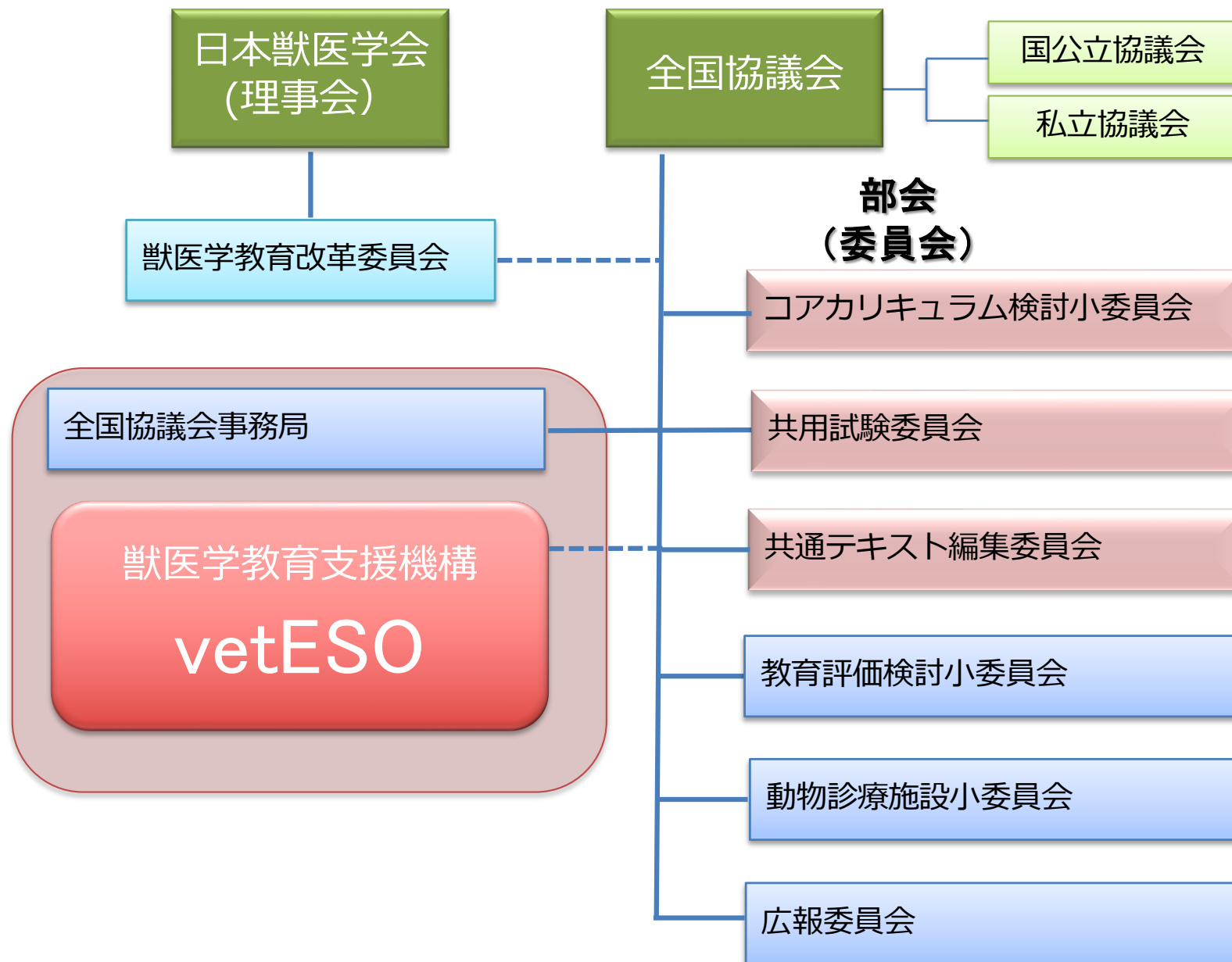
文字の大きさ [小](#) [大](#)

私たちは評価を通じ、質の高い薬剤師の養成に貢献します。

科目		2021年度	2020年度	差引額	備考
大科目	中科目	予算額(円)	予算額(円)	(円)	
会費収入					
	年会費	64,100,000	62,500,000	1,600,000	正会員内訳: 77大学、3団体(¥800,000/社員)、賛助会員 ¥100,000
事業収入					
	評価手数料	11,220,000	1,320,000	9,900,000	本評価手数料330万円×3大学、再評価手数料132万円×1大学 ※消費税込
合計		75,320,000	63,820,000	11,500,000	

獣医学関連組織図(伊藤茂男先生案)

20150316



機構の役割(定款第5条)

- (事業の種類)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。

- (1) 獣医系の大学等の**共用試験の実施及び評価**に関する事業
- (2) 共用試験の**問題、課題及び成績等の管理**に関する事業
- (3) 共用試験の**内容及び方法の改善**を図るための組織的な研究及び研修に関する事業
- (4) 獣医系の大学等における教育内容とその評価の発展充実を図るための学術研究活動・研修事業・啓蒙・普及活動等の実施並びに資料収集及び公開・提供等に関する事業
- (5) 獣医系の大学等における上記事項の連絡調整に関する事業
- (6) その他目的を達成するために必要な事業

NPO法人として、受験料は共用試験関連事業費にしか使えない！

他の事業運営には、別の財源が必要！

賛助会員(一口3万円/年)を広く募集しております。

ご支援を宜しくお願い申し上げます！

改善運動第3期 共用試験の開始

平成20年～(2008～)

特定非営利活動法人(NPO)獣医系大学間獣医学教育試験機構

平成27年(2015) 7月	獣医学教育試験機構の設立(理事長・高井)
平成28年(2016) 4月	獣医学共用試験 第1回実施年度システム準備
平成29年(2017) 2-8月	平成28年度第1回獣医学共用試験実施
平成30年(2018) 2-8月	平成29年度第2回獣医学共用試験実施
平成31年(2019) 2-8月	平成30年度第3回獣医学共用試験実施
令和2年(2020) 2-8月	平成31年度第4回獣医学共用試験実施
令和3年(2021) 2-8月	令和2年度第5回獣医学共用試験実施
令和4年(2022) 2-8月	令和3年度第6回獣医学共用試験実施
令和5年(2023) 2-8月	令和4年度第6回獣医学共用試験実施予定

支援機構は2015年7月に設置され、2022年に8年目(第9期)を迎えた
財政基盤が不十分な設立前後の時期から、新型コロナウイルス感染症
による移動制限によって、結果的に財政基盤が安定となった
関係者には多大なご尽力を頂きました。改めて、厚く御礼申し上げます。

教育組織改革

平成19年5月 獣医師の需給に関する検討会

全国レベルでは日本獣医師会

今後における獣医師需給と 農林水産省の獣医師の需給に関する検討会報告書の公表

日本獣医師会

獣医師の需給動向を踏まえた動物医療提供体制の整備の必要性は、獣医療政策の基本となるものでありますが、今般、標記の報告書が取りまとめられ、5月31日付けで公表されました。

日本獣医師会においては、かねてより、獣医師養成の基盤となる獣医学系大学の獣医学教育改善をはじめ、獣医師に係る各職域対策について、地区獣医師大会決議要望事項等を踏まえ対応を推進してきているところであります。

今回、農林水産省報告書が公表されたことを受け、獣医師需給対策についての日本獣医師会の考え方を次の通り整理しました。地方獣医師会をはじめ全国獣医学系大学等の関係者におかれましては、今後とも獣医師需給対策の積極的推進についてご理解のほどお願いします。

- I 獣医師需給対策についての日本獣医師会の基本的考え方
.....別紙1
- II 農林水産省の獣医師の需給に関する検討会報告書(要旨)
.....別紙2
- III 農林水産省の獣医師の需給に関する検討会報告書に対する
日本獣医師会の意見
.....別紙3

【別紙1】

I 獣医師需給対策についての日本獣医師会の基本的考え方

- 1 獣医師需給については、獣医師及び動物医療の果たすべき社会的役割の動向とともに、今後における診療対象動物の飼育動向、更に、人口構造等の社会経済情勢を見据え見通す必要があるが、日本獣医師会の獣医師需給に対する考え方は以下の通りである。
 - (1) 獣医師の数の全体需給は、現状程度（毎年1,000人）の新規獣医師養成により、今後ともほぼ均衡する。
 - (2) 獣医師需給の課題は、近年における新規免許取得者を中心とする継続的な小動物診療分野志向からくる産業動物診療分野や家畜衛生・公衆衛生分野の公務員獣医師の採用難による就業数の減少による獣医師就業の職域偏在にある。
 - (3) 今後、①不足職域に対する就業誘導、職域間の就業調整の政策配慮とともに、②獣医学系大学における臨床・応用実学教育体制のバランスのとれた整備と③不足職域における獣医師専門職の処遇改善対策が必要となる。
- 2 獣医師及び動物医療は、食の安全確保や共通感染症対策をはじめ、畜産業等の動物関連産業の振興、家庭動物の保健衛生の向上、更には、動物愛護・福祉、自然環境保全等幅広い分野において社会経済の発展、国民生活の安定に重要な役割を担っている。今後とも社会的要請に的確に応えていく上で、現状における課題は、動物医療提供体制の質の整備・充実を図ることにある。

教育組織改革

- 3 特に、獣医師養成の基盤となる獣医学系大学の獣医学教育課程については、関係者による長年の努力にかかわらず、教員数、施設・設備ともに極めて貧弱な状況にある、先ず、現行の学科規模の教育課程を学部体制に再編・統合することにより、高度専門職業人養成課程として抜本的改善を図る必要がある。

- 4 目指すべき優先課題は、動物医療の提供体制の質の整備・充実、獣医学教育課程の改善にある。 このためにも獣医学入学定員の抑制策は維持する必要がある。

第3期 国立大・共同学部・学科

平成20年～(2008～)

- 2010 宮崎大学医学獣医学総合研究科(博士課程)設置
- 2012 北海道大学・帯広畜産大学 共同教育課程設置
- 山口大学・鹿児島大学 共同獣医学部 設置
- 東京農工大学・岩手大学 共同獣医学科設置
- 2013 岐阜大学・鳥取大学 共同獣医学科設置

- 2022 大阪公立大学 獣医学部設置

教育研究体制の整備: 国立大の再編整備はこれからどう進むか?

18才人口の減少→国立大学本体の再編?

私立大の定員割れ→消える大学

第3期 私立大学は・・・

平成20年～(2008～)

- 私学は自助努力で
教育組織と教育研究環境を整備した。

共用試験に至るまでの経緯(まとめ)

臨床実習前学生の客観的な質保証において、
「何かを選ばなければならない中での1つの選択肢」

- **獣医学共用試験調査委員会** (2009.9月)
(委員長:高井伸二教授)
- **全国獣医学協議会に答申書を提出** (2010.3月)
実施に向けて準備委員会を設置することを決議
- **獣医学共用試験準備委員会活動開始** (2010.8月)
- **獣医学共用試験委員会発足**(2012.3月)
- **NPO獣医学教育支援機構発足**(2015.7月)
- **第一回獣医学共用試験**(2016.2月)



第3期の成果

平成20年～令和4年(2008～2022)

国際水準の獣医学教育の実施に向けた改革工程(イメージ)

※ 工程に示した期間は、医学・薬学等の事例を参考にして、あくまで目安として示したもの

H23 獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議による提言

教育研究体制 整備

- H23～
 - ・共同教育課程の検討
 - ・外部機関との連携など
- H24～
 - ・教育研究体制の充実
 - ・共同学部の実施(検討中)
 - ・共同学科の実施(検討中)

教育研究体制の充実

共同学部の推進等
更なる体制の充実

モデルコアカリキュラム 策定・実施

- H23
 - ・コアカリの策定
- H24～
 - ・各大学における
 - カリキュラムの改革

教育内容・方法の改善

H28頃 コアカリの改訂

分野別第三者評価 導入・実施

- H23～
 - ・評価の在り方の検討
 - ・評価基準案の検討
- H24～
 - ・評価基準案の提示
 - ・自己評価の試行
- H25～
 - ・評価基準の提示
 - ・実地体制等の決定
- H26～
 - ・評価基準の最終確定
 - ・トライアル第三者評価
- H32頃
 - ・本格実施

共用試験 導入・実施

- H23～
 - ・試験内容、実施体制
 - ・実施方法等の検討
- H24～
 - ・試験内容案や評価
 - 基準案の提示
 - ・試験内容等の決定
 - ・試験試行開始

臨床教育の改善

H28頃 試験の正式実施

充実した獣医学教育の実施、自律的な教育改善を促す質保証システムの構築

※ 各大学の取組の成果を検証し、結果を公表するなど、その確実な取組を推進していく必要

☆ 国際水準の獣医学教育の提供

分野別第三者評価に獣医学も！

The screenshot displays the website of the Japan University Accreditation Association (JUAA). The header includes the organization's logo and name in both Japanese and English, along with a search bar and a text size selector. A navigation menu lists various services such as 'University Accreditation Overview', 'Evaluation Business', 'Member School Roster', 'Symposiums', 'Research and Investigation', 'Publications and Materials', and 'Membership Information'. The main content area is titled 'Evaluation Business' and features a grid of ten service categories, each with a title and a brief description. A left sidebar provides a detailed list of evaluation types and includes sections for 'Evaluation Results Search', 'Member-Only' information, and 'Evaluator-Only' information.

大学基準協会
公益財団法人
Japan University Accreditation Association

初めて本サイトを訪問された方へ

文字の大きさ 大 小

検索

大学基準協会概要 | 評価事業 | 会員校名簿 | シンポジウム等 | 調査・研究 | 刊行物・資料等 | 入会案内

評価事業

ホーム > 評価事業

- 大学評価
- 短期大学認証評価
- 法科大学院認証評価
- 経営系専門職大学院認証評価
- 公共政策系専門職大学院認証評価
- 公衆衛生系専門職大学院認証評価
- 知的財産専門職大学院認証評価
- グローバル・コミュニケーション系専門職大学院認証評価
- デジタルコンテンツ系専門職大学院認証評価
- 獣医学教育評価
- 評価手数料
- 評価実務説明会
- 評価に関する諸規程
- 正会員資格判定

評価結果検索

→ 会員専用
会員大学の関係者様専用ページです。セミナー等の情報を公開しております。
詳しくはコチラ

→ 評価者専用ページ
評価者の方専用ページです
詳しくはコチラ

評価事業

- 大学評価**
大学に関する評価の概要及び申請手続き等について
- 短期大学認証評価**
概要及び申請手続き等について
- 法科大学院認証評価**
概要及び申請手続き等について
- 経営系専門職大学院認証評価**
概要及び申請手続き等について
- 公共政策系専門職大学院認証評価**
概要及び申請手続き等について
- 公衆衛生系専門職大学院認証評価**
概要及び申請手続き等について
- 知的財産専門職大学院認証評価**
概要及び申請手続き等について
- グローバル・コミュニケーション系専門職大学院認証評価**
概要及び申請手続き等について
- デジタルコンテンツ系専門職大学院認証評価**
概要及び申請手続き等について
- 獣医学教育評価**
概要及び申請手続き等について

大学設置基準ではない！

獣医学教育評価

認定証・認定マークの交付

本協会では、本協会の獣医学教育評価を受けて、獣医学教育に関する基準に適合していると判定された大学に、認定証及び認定マークを交付しています。

獣医学教育評価認定マーク



獣医学教育評価

公表方法・評価結果

2017（平成29）年度「獣医学教育評価」の結果について

(1) 獣医学教育評価の結果、獣医学教育に関する基準への適合認定を行った大学

(大学名五十音順)

設置形態	大学名
私立	麻布大学 獣医学部獣医学科

※評価結果については、[評価結果検索ページ](#)からご覧いただけます。

[2017（平成29）年度「獣医学教育評価」の結果について](#)（190KB）

[【資料】組織体制図、名簿](#)（282KB）

[【付録】獣医学教育評価に関する基準](#)（417KB）

[平成29年度「獣医学教育評価」結果報告書（全文）](#)（490KB）

第三者評価のための基準

「獣医学教育に関する基準」も改定された！

獣医学教育改善と充実のコンセプトと役割

各大学における活動・事業

教育連携

共同学部(学科)

再編・統合

必要とする教員数の確保
教育研究・診療施設の充実

全獣協・支援機構における活動・事業

モデル・コア・カリキュラム
共通テキスト事業

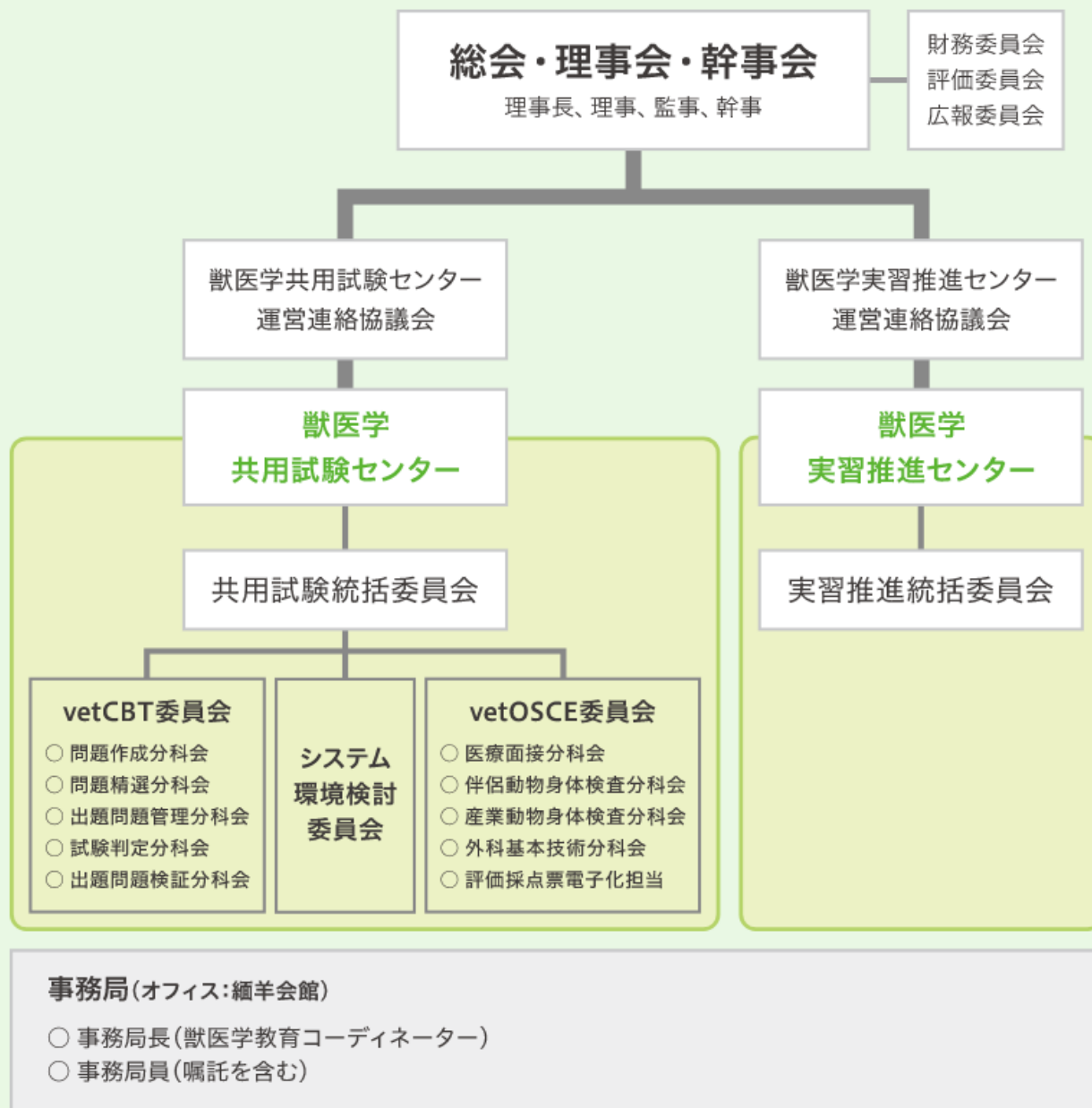
共用試験
(CBT, OSCE)

各大学の
カリキュラム改革

参加型臨床実習

特に、臨床教育・
公衆衛生・家畜衛生教育の充実

獣医学教育支援機構の組織 (2020.4.1以降)



機構の歴史

第1期

2015年7月3日～2016年6月30日

第2期

2016年7月1日～2017年6月30日

第3期

2017年7月1日～2018年6月30日

第4期

2018年7月1日～2018年9月30日

共用試験B日程(5年生前期)が年度を跨ぐことを解消するため、年度の開始を10月に変更した。

第5期

2018年10月1日～2019年9月30日

第6期

2019年10月1日～2020年9月30日

第7期

2020年10月1日～2021年9月30日

第8期

2021年10月1日～2022年9月30日

第9期

2022年10月1日～2023年9月30日

共用試験の実績

第1回 2017年2月～8月

第2回 2018年2月～8月

第3回 2019年2月～8月

第4回 2020年2月～8月

第5回 2021年2月～8月

第6回 2022年2月～8月

獣医学教育支援機構



獣医系大学等における教育の充実と
その評価に関する事業・啓発・普及活動を行います

機構の定款

(事業の種類)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。

- (1) 獣医系の大学等の共用試験の実施及び評価に関する事業
- (2) 共用試験の問題、課題及び成績等の管理に関する事業
- (3) 共用試験の内容及び方法の改善を図るための組織的な研究及び研修に関する事業
- (4) 獣医系の大学等における教育内容とその評価の発展充実を図るための学術研究活動・研修事業・啓蒙・普及活動等の実施並びに資料収集及び公開・提供等に関する事業
- (5) 獣医系の大学等における上記事項の連絡調整に関する事業
- (6) その他目的を達成するために必要な事業

国際水準の獣医学教育の提供

実践力を備えた獣医師の養成

基礎・応用生命科学の研究者

VPcamp 家畜衛生・公衆衛生

VFap 産業動物臨床



さあ！
実習を探してみましょう。

📍 場所から探す

🔍 実習内容から探す

NEWS 新着情報

注目！
今期のすべての募集を終了しました！
-
2022.07.14

注目！
3次募集 合否結果の通知について
-
2022.07.10

いくつかの実習で参加者の延長募集が決定！
-
2022.07.10



HOME

- NOSAI夏期臨床実習とは？
- スタンダード編への申込み
- ステップアップ編への申込み
- 参加学生の声
- 困ったときは
- 参加の手引き・提出書類様式をダウンロード

学習コンテンツ

産業動物臨床実習・教育ビデオ

牛の部位の名称

教員のみならずへ
NOSAI夏期臨床実習へのご協力のお願い

お問い合わせ

獣医学生のみならずへ 獣医学関連 教員のみならずへ

NOSAI夏期臨床実習とは？

NOSAI夏期臨床実習へのご協力をお願い

申込みの流れ

スタンダード編
獣医学部(科)1~6年生対象

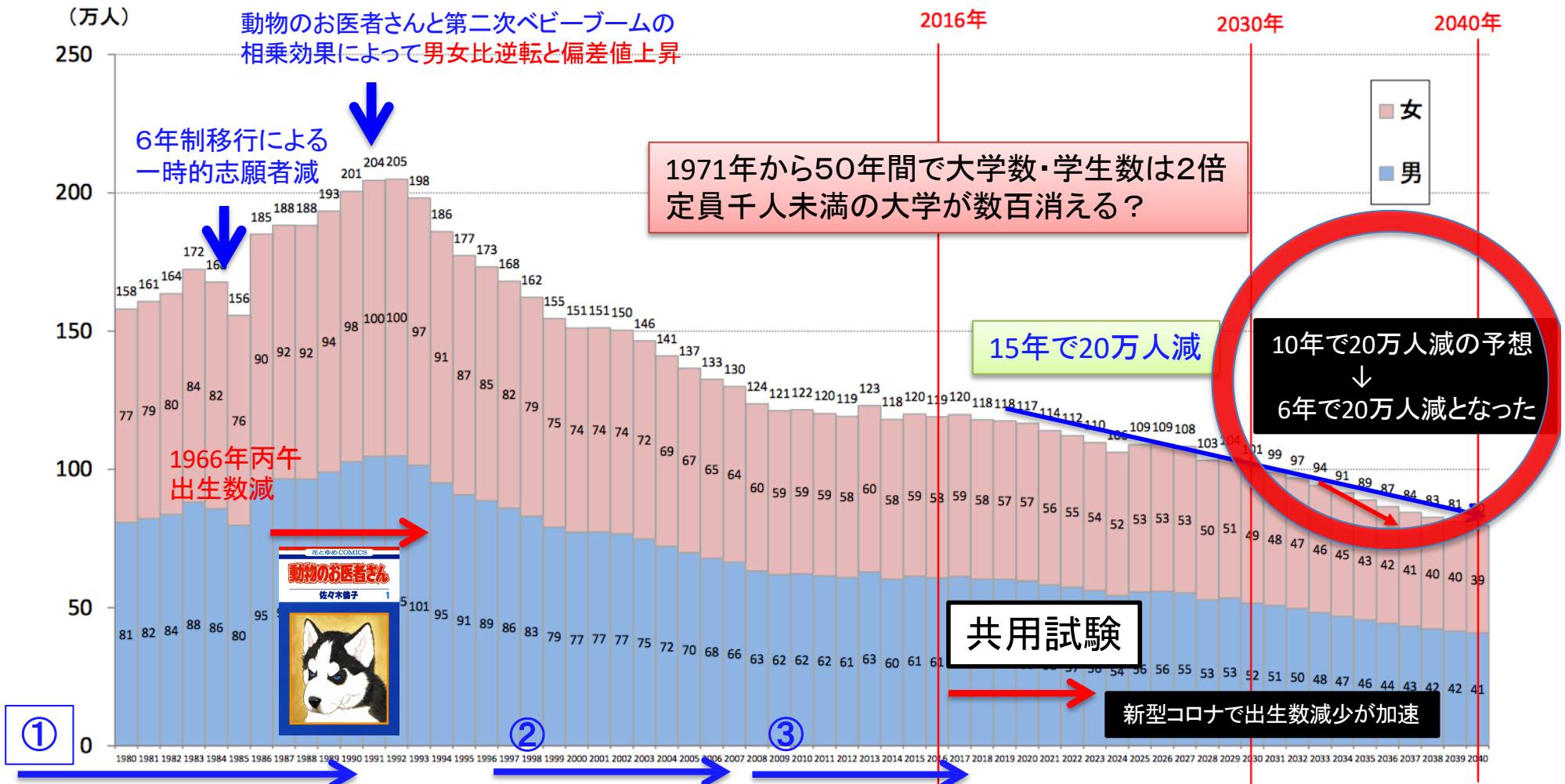
ステップアップ編
獣医学部(科)5,6年生優先
将来臨床獣医師を目指す学生はこちら

※北海道への実習希望は、北海道NOSAIホームページより申込を行います。

- 新着情報
- 2022年4月28日 学生・教員 2022年度スタンダード編 NOSAI香川の受入は中止になりました。
 - 2022年4月5日 学生・教員 2022年度ステップアップ編 受入情報を公開いたしました。
 - 2022年4月5日 学生・教員 2022年度スタンダード編 受入情報を公開いたしました。
 - 2022年4月5日 学生・教員 2022年度より申込方法、書類提出等で変更がありますので、説明をよく読んでお申込みください。

18歳人口(男女別)の将来推計

○ 2016年の18歳人口は、120万人程度であるが、2030年には約100万人程度まで減少し、さらに2040年には約80万人まで減少するという推計となっている。



※ 過年度高卒者（高等学校または中等教育学校卒業後1年以上経過した後に入学した者）等を含む。
 ※ 「高専4年等」は、国立工業教員養成所入学者（昭和36～41年）、
 国立養護教諭養成所入学者（昭和40～52年）及び高等専門学校第4学年在学者を指す。

18歳人口は減少、大学数は増加
 定員割れ大学は46.4%

（出典）平成39年以前は文部科学省「学校基本統計」、
 平成40年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（出生中位・死亡中位）」を基に作成

2021年度大学数788校(5年前759校) 国立82、公立93、私立592、専門職大学14

過去を振り返り、現在に至る

- 自己点検と外部評価
- 獣医学共用試験
- 獣医学支援機構
- 獣医学教育改善運動



未来への検討

- 人口縮小社会にどのように向かうのか？
- 10年後に訪れる18歳人口100万人から80万人への激変は、獣医師養成のあり方と獣医師の需給問題を含めて、極めて、難しい問題に直面する
- 既に、カウントダウンに入っているが、全国協議会・獣医学会・教育支援機構が、直面する課題を整理し、未来予測すべき時であることを、結びとしてお伝えしたい。

第四期の始まりは共用試験開始年か？

年代	全国協議会 唐木先生(2005)	日本獣医師会	本講演 (2022)
黎明期			1950～1970年
第1期	1971～1990年	1970～1990年	1971～1990年
沈黙の6年間	1991～1996年		
第2期	1997～2004年	1997～2001年	1997～2007年
第3期		2001～2007年	2008年～2016
第4期		2007年～	2017～

獣医学教育に関する研究の充実・発展ならびにその成果の普及・評価・点検を目的とした**獣医学教育学会**の立ち上げも必要ではないか？

To be continued

